

まちづくりディスカッション in くみやま

実施報告書



実施日時：令和7年7月12日（土）
午後1時～午後4時30分
実施場所：5階コンベンションホール

久御山町総務部総務課

1 まちづくりディスカッション in くみやまの概要

(1) 日時・場所

- ・令和7年7月12日(土) 午後1時～午後4時30分
- ・久御山町役場5階コンベンションホール

(2) 討議テーマ

くみやま野菜を広めよう

(3) 参加者

- ①人数＝24人（男性11人、女性13人）
- ②地域構成：大橋辺1人、北川顔1人、藤和田1人、東一口1人、相島1人、野村2人、坊之池3人、佐山3人、佐古2人、林4人、市田2人、田井2人、栄1人
- ③年齢構成：10歳代2人、20歳代2人、30歳代3人、40歳代6人、50歳代6人、60歳代4人、70歳代1人

(4) 選出方法

住民基本台帳より18歳以上・74歳以下の男女1,000人を抽出し、参加依頼書を送付、参加希望者の中から抽選により参加者を選出。

(5) 討議進行方法

- ①年代・性別のバランスを考慮して4～5人程度の5グループに分ける。班ごとにコーディネーター（職員）が入る。
- ②班ごとに進行役、記録係、発表者を決める。
- ③「くみやま野菜を広める方法」を話し合う。

(6) タイムテーブル

- 1 3 : 0 0 総務部長あいさつ
- 1 3 : 0 5 進め方説明
- 1 3 : 1 5 久御山町の取り組みの紹介
- 1 3 : 2 5 自己紹介、進行役、記録係、発表者などの協議
- 1 3 : 3 5 グループディスカッション①
- 1 4 : 2 0 休憩
- 1 4 : 3 0 グループディスカッション②
- 1 5 : 0 5 休憩
- 1 5 : 1 0 発表準備
- 1 5 : 3 0 発表
- 1 6 : 2 0 町長講評
- 1 6 : 3 0 閉会

2 ディスカッションの概要

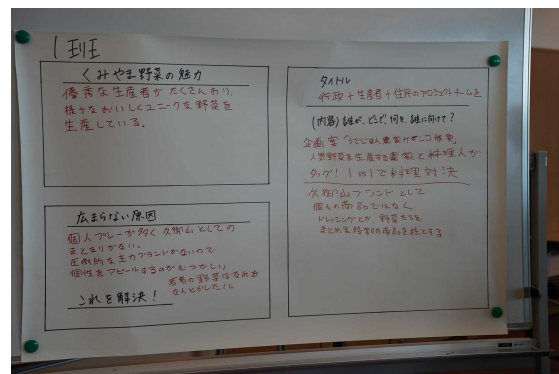
1班 行政+生産者+住民のプロジェクトチームを

くみやま野菜には、ネギやとうもろこしなどユニークでおいしい野菜がたくさんあります。また、農家さんによって味の特徴が出るなど優秀な生産者がたくさんいるという魅力があります。

一方で、農家同士で協力する機会が少なく、町としてのまとまりが薄い印象があります。そのためか、町としての圧倒的な主力ブランドがなく、アピールが難しい状態だと思います。また、若者が積極的に野菜を摂らないなどの野菜離れもくみやま野菜が広がらない原因だと思います。

そこで、「うで自慢農家ガチンコ勝負」というイベントを考えました。まとまりがない農家を無理にまとめるのではなく、逆に有名料理家とタッグを組んだ農家同士の1対1のガチンコ料理対決をしてもらいたいと思います。住民の方に実際に食べてもらい、投票してもらうことで野菜に興味を持っていただけるのではないのでしょうか。

また、野菜を広めるために、久御山町独自の「ドレッシング」を作り、野菜が食べやすい方法を作り出すのも1つだと考えました。このようなイベントで個々の農家の頑張りを町全体でまとまって盛りあげていければ面白いと思います。



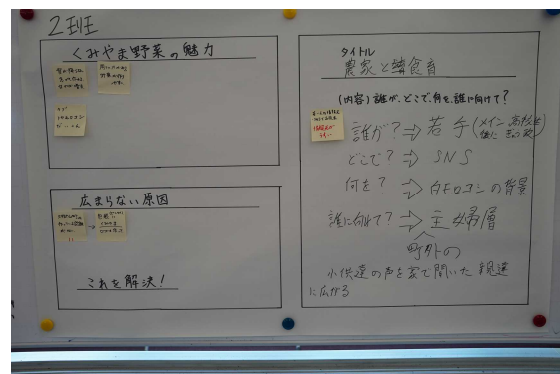
2班 農家と食育

久御山はあまり雪が降らないので、冬でも野菜が作れますし、特に冬野菜は甘みを増します。また、周りに川があり、水源の確保にも恵まれています。このように久御山では年中野菜を生産できる環境が整っているため、農家さんは安定した収入を確保することができますし、その収入でさらなる挑戦ができるなどの魅力があります。

一方で、消費者は食べている野菜が久御山産だという認識があまりないと思います。また、農家の横の繋がりが薄く、行政の力を借りて野菜を売り出すなどのまとまった取組みができていないのが広まらない原因になっていると思います。

そこで、「農家と食育」と題して、SNS などを通じた PR を考えました。メインは久御山町の学生で、行政協働で農家監修の基、今話題の白いトウモロコシなどの農業体験をしてもらいます。若者が農業に触れる貴重な体験にもなりますし、その中で、トウモロコシ作りの背景など SNS を通じて発信するとともに、収穫した野菜を実際に自宅で食べることで食育にもつながります。

また、おいしかったなどの感想を主婦層がママ友との会話で共有することで幅広い PR につながるのではないかと考えました。



3班 久御山野菜のおいしさを知ってもらおう

久御山町には、ネギや小松菜、トマトなどたくさんの野菜があります。また、直売所が多くあり、農家さんが作られた新鮮でおいしい野菜が通年食べられるのが魅力だと思います。

一方で、せっかくおいしい野菜があるのに、レシピや食べ方がわからないという方が多いのではないのでしょうか。農家さんならおいしい食べ方を知っていると思いますが、知るきっかけや情報が行き届いていないような気がします。

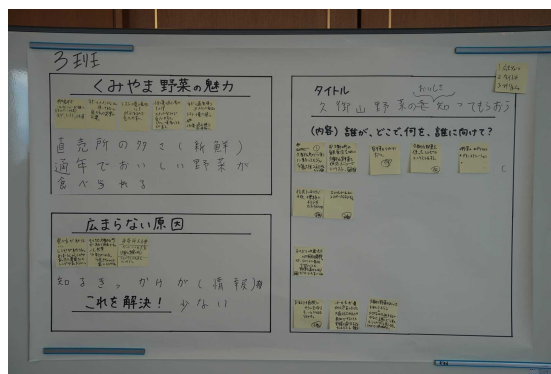
また、年配の方や赤ちゃんがいる子育て世代の方は直売所になかなか買いに行けないなどの理由で広まらないのではないかと考えました。

そこで、「久御山野菜のおいしさを知ってもらおう」と題して、町の駅縮小版のようなイベントを開催してみてもいいのでしょうか。

内容としては、町内の飲食店に協力してもらい、久御山野菜を使ったメニューでコンテストを行います。そこで登場するメニューからレシピを学んだり、野菜が苦手な子どもたちにはスムージーにして楽しく野菜を摂ってもらうなど家庭でより野菜を食べてもらえる機会を提供するのが狙いです。

また、イベントに行きたくても行けない年配の方や子育て世代の方にはシルバー人材センターなどに協力を要請し、野菜の配達をすれば幅広い方に野菜が浸透していくのではないのでしょうか。

食を通してみんなが笑顔になれる取組みを町民全員が関わりながら広げていければ良いと思います。



4班 くみやま野菜で健康に！

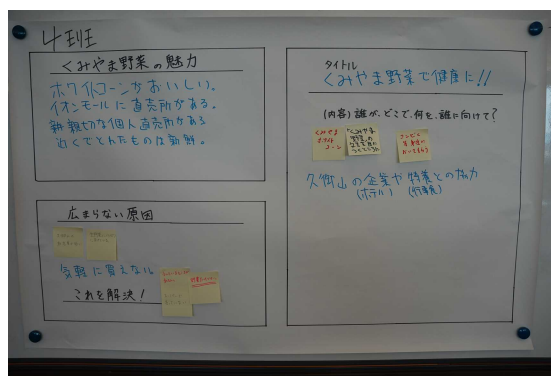
久御山町には、久御山イオン内の「旬裁の里」など多くの直売所があり、近くでとれたものはどれも新鮮でおいしく、親切な農家さんが多いです。特にホワイトコーンは甘くておいしいという声を良く聞きますし、多くの魅力があります。

一方で、そもそも久御山町の知名度が低いこともあります。九条ネギなど久御山の野菜が「京野菜」という括りに負けてしまっている印象があります。また、直売所が比較的西側に集中しており、一般のスーパーではあまり見かけないため、気軽に買うことができないことなどが広まらない原因だと考えます。

そこで、もっと「くみやま野菜」という文言が浸透する環境を整えてみてはどうでしょうか。例えば、交通量が多い国道1号線沿いに「くみやま野菜」ののぼりを立て、多くの人に目にしてもらったり、17時の町内放送で「くみやま野菜」を耳から取り入れてもらうなど、「くみやま野菜」の認識を持ってもらうことが大事だと考えます。

その上で、配布された野菜クーポンを利用して、まずは町人に野菜を食べる習慣を持ってもらいたいです。住民が気軽に買いに行きやすいコンビニなど身近なところで野菜を販売してみてはどうでしょうか。

その他、町内にある特別養護老人ホームや新しくできた「ホテルルートイン久御山」などにも協力を依頼し「くみやま野菜」を使用した食事の提供をしてもらうことで食育のPRにも繋がるのではないかと考えます。



5班 久御山町を知ってもらう！

久御山町には、多くの直売所があり、新鮮な野菜を買いやすい環境が整っています。また、野菜の種類も多く、なすびをとっても水なすやフルーツなすなど1つの野菜でも多くのバリエーションがあります。他にも、工業と農業の二刀流の町であり、根付きがよく、実付きのよい「淀苗」文化など久御山町ならではの独自性があるところも魅力だと思います。

一方で、広まらない原因としては大きく分けると3つあると考えます。まずは、野菜の情報発信不足や他の野菜と比べて秀でているようなストーリーやブランド力に欠けるマーケティングの問題。次に、直売所は多くありますが、スーパーや百貨店などでの販売機会が少ないことや消費者が産地を意識する仕組みがないチャンネルアクセスの問題。最後に、全国で野菜の有名産地として名前が上がる地域と比べると生産量が劣る、生産量の問題の3点にあると考えます。

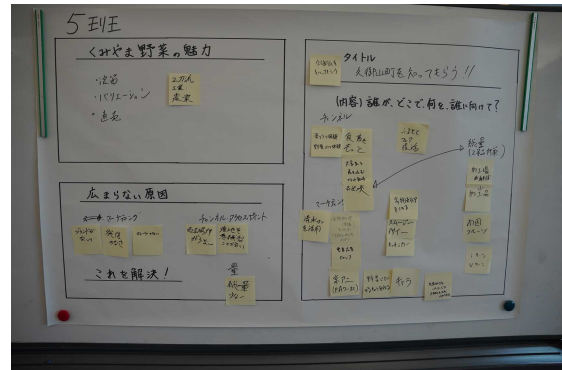
そこで、まずは「久御山町を知ってもらう」ところから始める必要があると思います。日本遺産に登録されている流れ橋や映画でも使用されている久御山ジャンクションをネタに久御山町に来てもらい、1号線沿いにのぼりをたてるなど実際に足を運んでもらった上で「久御山は野菜のまち」であるという認識を持ってもらいたいと思います。

また、農家さんの知恵をお借りして、小学校で野菜の種まきから収穫まで行い、野菜作りの楽しさを体験してもらい、収穫した野菜を持ち帰って食べる事でおいしさを広めてもらいます。また、町外の方向けの農業体験ツアーも良い宣伝になるのではないのでしょうか。このような企画の構想の段階で大学生など若者を巻き込んで知恵を借りるのも効果的だと思います。仮に効果が出なくても若者には良い経験になると思います。

生産量に関しては、加工場を設けて、通常直売所には出せない訳あり商品などをジュースやお菓子に加工して販売すると若者も農業をやってみてもいいかと思う方が増えるのではないのでしょうか。

他にも、アサイーやスムージーなど新たな町の名物を作り、販売にキッチンカーを利用すれば遠くでも久御山町をPRすることができます。

このような新しい取組みを民間の中で有志のプロジェクトチームを作り、行政と連携をとりながら民間企業が地域興しに取り組んでいくと若者の定着にも繋がりますし、よりくみやま野菜を広めていくことができると思います。



3 住民討議会参加者アンケート結果

1 参加された感想をお聞かせください

- | | |
|-------------|----|
| ① 良かった | 22 |
| ② 良くなかった | 0 |
| ③ どちらともいえない | 2 |

2 参加動機についてお聞かせください（複数回答可）

- | | |
|----------------|----|
| ① テーマに関心があったから | 19 |
| ② 無作為抽出で選ばれたから | 6 |
| ③ 町に要望等があったため | 3 |
| ④ その他 | 3 |

3 この住民討議会は住民の声を行政に伝える手段として適していると思いますか

- | | |
|----------|----|
| ① 適している | 19 |
| ② 適していない | 0 |
| ③ 分からない | 5 |

4 討議の時間はどのように感じましたか

- | | | |
|---|--------|-----|
| ① | ちょうど良い | 1 5 |
| ② | 長い | 4 |
| ③ | 短い | 5 |

5 会場の雰囲気はどうでしたか

- | | | |
|---|-----------|-----|
| ① | 良かった | 2 3 |
| ② | 良くなかった | 0 |
| ③ | どちらともいえない | 1 |

6 事前配布の資料の量は十分でしたか

- | | | |
|---|--------|-----|
| ① | 十分であった | 1 9 |
| ② | 多い | 1 |
| ③ | 少ない | 4 |